

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 6日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 0193600061 | | |
| 法人名 | 株式会社 日総 | | |
| 事業所名 | ふれあいの里 グループホームいすの木 | | |
| 所在地 | 苫小牧市住吉町2丁目8番地9号 (電話) 0144-37-1330 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 社会教育総合研究所 | | |
| 所在地 | 札幌市中央区南3条東2丁目1 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年2月27日 | 評価確定日 | 平成21年3月13日 |

【情報提供票より】 (平成21年2月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------|---------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 18年6月22日 | | |
| ユニット数 | 2ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤 | 15人, 非常勤2人, 常勤換算16人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|---------|--|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | | |
| | 2階建ての | 1~2 階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|------------------------------------|
| 家賃(平均月額) | 39,000 円 | その他の経費(月額) | 水道光熱費: 21,000円 暖房費(11-3月)9,000円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | 1日当たり | 1,300 円 | |

(4) 利用者の概要(2月12日 現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護1 | 9 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 4 名 | | |
| 要介護5 | 名 | | 要支援2 | 名 | |
| 年齢 | 平均 84,6 歳 | 最低 | 74 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人社団養生館 苫小牧日翔病院・青葉病院・青葉病院口腔外科歯科 |
|---------|-----------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「いすの木」は、JR苫小牧駅から車で10分ほどの距離にある幹線道路に面した商業地域にあり、周囲には市立病院や教会建築を模した結婚式場などがある。「いすの木」とは丈夫な材質を活かし、笛などの材料となる暖地に自生する高木で、法人の苫小牧における3番目のグループホームとして協力医療機関が名づけ親となり、平成18年に開設されている。管理者は、利用者の生活歴を把握し、その思いや意向を尊重しつつ環境を整えることで、今まで行ってきた趣味などを継続することができるよう支援していくことを目標としている。また、家庭的な環境下で一日一日を安全に安心して楽しく生活することと同時に、外出の希望に対して個別に対応していきたいと考えている。

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 重度化や終末期に向けた方針の共有と災害対策は改善されているが地域密着型サービスとしての理念、市町村との連携、同業者との交流を通じた向上、運営に関する家族等意見の反映、同業者との交流を通じた向上については、現在も取り組みを継続しているところである。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価は、各ユニットごとに1部用意し、夜勤帯や休憩時間を利用して、新入職員を除く全職員が記入をしている。管理者は、合わせて運営者についての項目の確認を行い取りまとめている。自己評価の記入方法や前回の外部評価の取り組み項目について「サービス評価ガイドブック」を参考に具体的な改善への取り組みを検討中である。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 6ヶ月に1回の頻度で町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、職員の参加で開催している。事故報告、外部評価、介護保険の現状、質疑応答などを行っている。災害対策では消防署職員の参加もあり、地域や事業所への啓蒙活動の場となっている。またメンバーからは、看護学校との交流が提案され検討しているところである。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 1階は「いすの木通信」、2階は「ひだまり通信」を年4回季刊で発行、写真を多用し誕生会などの全体の様子を伝えている。家族の来訪は少なくとも月に1回はあるので、その際に生活の様子や職員の交代を口頭で報告している。健康状態については、電話で報告し出納報告と領収書は毎月送付している。重要事項説明書に事業所と法人全体及び公的機関の相談・苦情窓口を明記している。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 町内会に加入しているが、幹線道路に面した商業地域に立地していることと地域住民が高齢化しているなどの事情により、積極的な活動は行っていない。事業所主催で地元の人々を招待する行事は実施していないが樽前神社の祭りには、利用者も出かけて屋台や金魚すくいを楽しんでいる。 |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 平成18年開設時に全職員で「安全に安心して暮らせる家庭的な環境を提供します」「意思・人格を尊重し共に生きる事をお手伝いします」「笑顔のある暖かい生活を提供します」という3項目から成る基本理念を作成している。 | ○ | 開設時の理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目指した事業所独自の理念の作成を期待したい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は、事務所内に掲示し介護計画の作成やミーティングの場面で話し合いが行われている。利用者にとっての安心・安全と意思や人格を尊重するという具体的な内容を考えながら日々のケアを提供している。 | ○ | 理念をパンフレットや通信に掲載するなどの方法で、管理者と職員が理念を共有し、実践に向けて取り組むことができるよう、期待したい。 |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入しているが、幹線道路に面した商業地域に立地していることと地域住民が高齢化しているなどの事情により、積極的な活動は行っていない。事業所主催で地元の人々を招待する行事は実施していないが樽前神社の祭りには、利用者も出かけて屋台や金魚すくいを楽しんでいる。 | ○ | 看護学校の学生との交流を検討中とのことなので、その実現を期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は、各ユニットごとに1部用意し、夜勤帯や休憩時間を利用して、新入職員を除く全職員が記入をしている。管理者は、合わせて運営者についての項目の確認を行い取りまとめている。自己評価の記入方法や前回の外部評価の取り組み項目について「サービス評価ガイドブック」を参考に具体的な改善への取り組みを検討中である。 | ○ | 職員間で自己評価を検討することで理解が深まるよう期待したい。また、外部評価の取り組み項目を確認し、具体的な改善に取り組むことを期待したい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 6ヶ月に1回の頻度で町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、職員の参加で開催している。事故報告、外部評価、介護保険の現状、質疑応答などを行っている。災害対策では消防署職員の参加もあり、地域や事業所への啓蒙活動の場となっている。 | ○ | 一人ひとりの心身の状況に応じて利用者の参加と開催頻度について検討することを期待したい。 |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市に運営推進会議の案内文を送付しているが参加は得られていない。管理者は、事故報告に関するアドバイスを受たり、身体障害者の福祉制度や生活保護制度などの利用方法について情報収集し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 1階は「いすの木通信」、2階は「ひだまり通信」を年4回季刊で発行、写真を多用し誕生会などの全体の様子を伝えている。家族の来訪は少なくとも月に1回はあるので、その際に生活の様子や職員の交代を口頭で報告している。健康状態については、電話で報告し出納報告と領収書は毎月送付している。 | ○ | 季刊発行の通信に職員の交代を報告するとともに毎月の金銭管理の報告の際に、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えることができるよう、期待したい。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 重要事項説明書に事業所と法人全体及び公的機関の相談・苦情窓口を明記している。玄関の人目につかない場所に意見箱を設置しており、活用されている。家族等からの苦情は、記録することで情報を共有し職員会議で検討、対応している。家族の来訪時には、居間などを使ってゆっくりと話をしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ユニット間での異動はあるが日常的に交流があるので利用者のダメージはないと考えている。利用者から質問がある場合は、職員の交代を説明している。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|--------------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の情報は、事務所に掲示し参加を募っている。外部研修は、1名の職員が平均して年1回は、事業所が費用負担をして勤務扱いで参加している。外部研修の資料は、職員間で共有し、研修報告を作成して月1回の定期的な職員会議で伝達講習をしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は、市グループホーム協議会、市内3箇所の法人のグループホームブロック会議、本社で開催される法人全体の管理者会議などに参加している。職員が地域の同業者と相互訪問などを通して交流する機会は得られていない。 | ○ | 他事業との相互訪問を検討しているということなので、その実現を期待したい。 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | サービス利用前には、本人・家族に見学を勧め、入居後は掃除や調理などの家事を一緒に行いながら他の利用者との関係づくりを支援している。家族から本人の生活習慣や好みを収集し、本人が安心できる生活づくりをしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、料理方法や編み物、古い歌を利用者から教えられることがあり、乾いた洗濯物を一緒にたたむなどの家事を通して、ともに支えあいながら生活をしていることを実感している。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自分の気持ちを上手く表現できない利用者の意向や思いは、表情や動作で把握するように努めている。車いすの向かっていく方向で何をしたいか理解したり、口調の様子で気持ちを把握している。居室を訪問した時や入浴時に利用者とゆっくり話をする事で思いを把握するように努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人の思いや家族の要望を聞いたり、生活歴、医療情報を参考にして計画作成者が介護計画を作成している。介護計画は、職員で話し合い家族に説明して同意を得ている。本人が説明をきいてサインをする場合もある。暫定的な介護計画は、利用開始後1ヶ月位で見直し、本計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎月介護計画の話し合いを行い、3ヶ月毎に評価して家族に説明している。3ヶ月毎に見直しを行っているが、現状維持で変化がない場合が多いので、計画は継続する事が多い。入退院による歩行レベルの変化や、精神状態の変化に応じて介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制を利用して、健康管理や相談を行っている。退院にあたり、看護師に相談をする事もあるが、事業所での点滴などの対応は、今まで必要とならないため行われていない。利用者の買い物に、事業所の車や介護タクシーを利用して柔軟に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 現在、1名の利用者以外は全員利用開始前からのかかりつけ医に継続受診している。かかりつけ医の受診は、健康状態記録を持参して家族が送迎し、受診結果を連絡ノートなどに記録して貰い利用者の健康状態を把握して適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 前回の外部評価を踏まえ、「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を作成して説明をし署名を得ている。年1回開催している家族会において、医療行為が必要とならなければ、ある程度事業所での看取りに対応できる事を本社の方から説明を行っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 命令的な言葉使いや威圧的な言葉使い、利用者をけなすような言葉使いはしないように配慮している。個人情報、事務所で鍵をかけて保管している。居間で記録する時は利用者から離れて記入し、記録途中の書類は事務所で立てかけて見えないように配慮している。 | ○ | 利用者の誇りやプライバシーを護る言葉使いについて、職員会議で検討することができるよう、期待したい。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事などの一日の流れは決まっているが、一人ひとりの生活リズムを尊重して、夜眠れない人には朝ゆっくり寝て貰い、食事を遅らせるなどの配慮をしている。花の水やりやお茶を入れる、食事の準備などそれぞれの利用者のできる事を支援して手伝って貰っている。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は、法人の管理栄養士が作成している。年1回外出に出かけたり、家族会の催しとして中庭でバーベキューを楽しんだりして食事が楽しくなるように支援している。モヤシのひげ根取りや野菜の皮むきなど、利用者に応じて手伝って貰っている。職員と一緒にテーブルを囲み、食事を楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日曜日以外の毎日、午後を入浴時間として、一人週2回以上入浴できるように支援している。高齢で入浴が負担になる利用者には、家族と相談して週1回入浴でシャワーや清拭で対応している。拒否が強い時は、日にちを変更したり、着替えの服と一緒に選ぶ事で、入浴が楽しくなるように支援している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 日めくりをめくる、ゴミを捨てる、モップをかけるなど、役割を持って張り合いのある生活が出来るように支援している。カラオケや囲碁、花作り、お風呂上がりにお酒を楽しむなど、楽しみや気晴らしが出来るように支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 夏季は、ゴミ捨てや畑の草取りに週2,3回出かけたり、週1回散歩などに出かけている。中庭でおやつを食べたり、日向ぼっこをしたり、外気浴をしている。冬季は、買い物や外食、病院の通院などで出かけている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関がに幹線道路面しているため、1階フロアのみ利用者の安全面に考慮して、無断外出のおそれのある利用者が居る時は、3カ所のドアの1番手前だけを施錠している。ドアにセンサーを付けて、外出に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回、消防署の協力を得て日中、夜間を想定して、通報訓練、消火訓練、避難訓練を実施している。運営推進会議で地域や消防署と話し合い連絡網を作成している。避難経路図を廊下に掲示し、災害時にスムーズに避難できるようにしている。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個人記録に水分摂取量、食事摂取量を記録している。水分は1日1000ccを目標にして、摂取量が少ない利用者には、飲み物の種類を変えたり、お粥にして水分を多く取れるように工夫している。献立の栄養管理は、法人の管理栄養士が行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 広々とした居間に、季節を感じる雛飾りや観葉植物、手作りの日めくりなどがあり、利用者が落ち着いて居心地良く過ごせるように工夫されている。廊下には、ボランティアの人から送られた絵が、車椅子の人にも見やすいように低い位置に飾られるなど、細やかな心配りがなされている。手すりに洗濯物を干して湿度調節をしている様子が、生活感を感じさせる。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 椅子や箆笥、テレビなど使い慣れた家具が持ち込まれていたり家族の写真が飾られ、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫されている。利用者の好みで、家具や装飾などを一緒に移動して、居心地良く過ごせるように工夫している。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。